

ステイ
つくしの里



手洗いの回数を増やして
ウイルスをブロック!!



外出ダメ～! 外泊ダメ～!
制限中の1ヶ月をどのように過ごしたのか…。
ご覧ください。施設内でも十分楽しめます★



お楽しみ会



利用者さんのためなら体もはります!



テイクアウト弁当会



里だより

No.341

令和2年6月1日

—発行—

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



ありがとうございます!
編集後記……………6

サービス向上委員会より
その他……………5

職員より・医務より……………4

主任より……………3

業務部より……………2

施設長より……………1
(ページ)

六月号もくじ



施設長より



段階的に活動の幅を広げる

五月も半ばを過ぎると、日中は二十五度を越える夏日が続いています。初夏の訪れと共に、若葉から青葉へと施設を取り巻く風景も例年通り変化して参りましたが、今年には新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、「三つの密」を避けることで、利用者さんにとってはお外出もままならず、季節の移り変わりを目や肌で感じ取る機会が損なわれてしまいました。

新型コロナウイルスの感染も世界的には終息の兆しが見えぬ中、一旦は終息したものの再度感染者が出た国もあるようです。

国内においては、五月十四日に四十七道府県に発令された緊急事態宣言が三十九県で解除する方針が決定されました。

熊本県では緊急事態宣言の解除と新規感染者の減少から、感染状況の地域区分が「感染拡大傾向期」から「感染確認地域」にランク引き下げられました。県内の小中学校・高校などは六月一日から三段階に分けて再開され、八日からは全面再開する予定とのことです。但し、解除後も県を越える移動や「三つの密」を避けること、また、接待を伴う飲食店の利用や、屋内で五十人以上が集まる集会・イベントへの参加を控えるよう求めています。

当施設でも感染拡大の防止策として、二月二十七日から施設ご利用時の検温並びに手指消毒、外出・外泊の禁止や来訪者の制限、加えて個別支援計画に係る保護者面談、施設・後見人・家族情報

交換会等、すべての行事を中止させていただきました。

また、緊急事態宣言発令後は、在宅からの生活介護ご利用者の利用自粛のお願いや、入所利用者さんとの活動場所の完全分離、日中一時支援・短期入所事業の一時受け入れ中止等、段階的にクラスター感染予防措置の強化を図ってきました。

現在は国内の感染状況や国の方針、県内の状況等を踏まえ、六月一日から日中一時支援・延長支援、短期入所事業を再開することにし、施設内での小規模なイベント、「三つの密」を避けながらの外出、ご家族との外出や外泊等、状況を見ながら段階的に活動の幅を広げていく予定です。

尚、延期しておりました面談も日程を組み直し、七月から順次開始して参りますので、ご家族の皆様にはご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

自粛要請が解除されたとは云え、ウイルスは存在しています。何時・何処で感染するか解りません。今年度も地域の皆様をお招きする「秋の里まつり」を予定しており、例年ならばそろそろ企画書の作成に取り掛かるところですが、秋以降に第二波が訪れるとの報道もなされています。イベントの縮小または中止等、「安心・安全」を最優先に考えた上で、早急な決断が迫られています。

巷では感染予防への意識が少しずつ緩みかけている気がしますが、施設にあつては、決して安全な状況でないことを認識した上で、引き続き感染防止対策はもとより、熱中症の予防対策の準備も進めて参ります。

施設長 小川 眞司

業務部より

家で過ごそう



三月以降、新型コロナウイルス一色となってしまいました。

外出自粛、不要不急の外出は控えましょう、と新緑が眩しい、春の美しい景色を楽しむこともできない数か月間でした。

つくしの里においても、外泊・外出・面会等の中止の対策により、利用者さんには随分窮屈な生活をしていただくことになりました。命が一番大切なので、仕方ないことではありますが、閉塞感はありません。

そんな中、四月の給食会議で栄養士が利用者の方々に献立のリクエストを尋ねたところ、施設長から「こんな状況だから食事くらい贅沢して良いです。土用丑の日じゃなくても鰻を出して良いです。皆さん遠慮なく食べたい物を言ってください」との発言がありました。

利用者さんからは、鰻、おはぎ、たこ焼き、焼き肉、熱々の中華まん、セレクト食の種類を増やして欲しい等々、思い思いの意見が出されました。

これを受け、利用者さん以上に張り切ったのは他ならぬ栄養士です。四月の焼き肉会を中止した代わりに助六と天ぷら。五月に入ってから、子どもの日のデザートとして利用者さんに好きなケーキを選んでお出ししました。運動会も延期になりましたので、お弁当メニューは変更せずに、三種類（チキン南蛮・焼き肉・ハンバーグ）から選べるお弁当セレクトの日を設けました。初の試みとなるトルコライスにも果敢に挑戦していました。

ご家族の皆様からも、「せめてお菓子でも食べさせてください」とか「新鮮な野菜を給食で使ってください」とか「旬のイチゴを差し入れします」と、たくさん温かいお心遣いをいただき感謝の気持ちでいっぱいです。利用者さんも大変喜ばれていました。ありがとうございます。

美味しいものばかり食べていると、体重が心配になりますが、外周を歩いたり、運動器具を使って体を動かしたり、施設内で出来る運動を頑張っておられましたので、今のところ目立ってふくよかになられた利用者さんは見受けられません。

職員も休みの日は自宅で過ごしていたので、「録画したテレビ番組を見終わった」とか「この機会に断捨離している」とか「家の片づけで腰が痛くなった」とか、自粛生活の話題ばかり。

金曜日、仕事を終えて帰るとき、利用者さんに「また月曜日です」と挨拶したら、「どこでも行くといかんぞ！病気がうつるけん！家でじっとしとけよ！」と声を掛けられ、土・日も連休中もどこへも出かかず、衣替えをしたり、室内で運動したり「家で過ごそう」を実践しました。

熊本を始め、多くの県で緊急事態宣言が解除されましたが、「新しい生活様式」を提唱されているので、アフターコロナの対応をとらなければなりません。

第二波、第三波に備え、気を抜かず感染予防対策に努めながら、一日も早い終息を願うばかりです。

業務課長 光永明日美

主任より



「山中さんの子どもって何歳ですか？」と同僚に尋ねられたので、「十歳だよ」と答えると、「あと十年で成人ですね。中山さんは五十歳ですか。想像つかないですね。」と言われました。つくしの里に入職してからの事を考えると、十年が過ぎるのは速いと思います。

ふと何年前の本誌に「家族と過ごせる時間はあとどれくらいだろう」と書かれていた事を思い出しました。

両親と一緒に暮らした年数が二十年。今の妻と出会ってからの二十一年。もうすでに自分の両親より妻と過ごした時間が長くなっていきます。そうやって時間が過ぎていく事を理解しながらも、三人の子ども達の巣立ちや長崎の両親と会える残りの時間を考えれば、しょうがない事とは言え、やはり寂しく感じます。たまには電話しようかな…。

現在はコロナの影響から、つくしの里でも外泊や外出の自粛で、利用者の皆様も保護者の方となかなか会えない状況が続いています。利用者の方からも「〇〇行きたかね」「外泊したかね」と言われると、ご家族の方と過ごせる時間を削らざるを得ない現状に複雑な思いを感じています。

コロナの収束までは予断を許さない状況ではありますが、利用者さんの気持ちに寄り添い、一日一日を楽しく過ごせるよう支援していきます。

主任支援員 山中 真史

思い込み

先日、利用者のMさんがスプーンのコーンを残されていました。普段から小さな豆類は残されるので、てっきり嫌いなのかなと思っていました。沢山残っているコーンを見て、「もしかしたら…」という軽い気持ちでスプーンを渡してみると、掬って食べ始め、完食されました。箸では食べにくかったのかもしれませんが。

また、Mさんは排泄後にトイレで手を洗おうとされません。衛生上良くないと思い、たまたま冬場に手洗いを何度も促したところ「冷たかもん！」と強く言い返されました。トイレの手洗い場はお湯が出ないため、冬場は特に冷たいのです。そう言われれば、お湯が出る蛇口では手洗いをされています。現状に慣れてしまい、私の感覚がマヒしている事にその時気付かされました。

何故そうしているのか、理由を考えないまま何となく「こうだろう」と思っただけで見てきていた事を反省しています。

最近、ある職員が利用者さんに着衣の自立を促す声掛けを熱心にしていました。私はその方に殆ど介助していたので、本来ならば、すべき支援を疎かにしていたことにハッとしました。と同時に、そのような見方を忘れずに支援を続けていく職員が存在することに有難みも感じました。

「初心忘るべからず」施設長が言われる「当たり前を疑う」姿勢で、どうあれば良いか考えながら、施設という組織・利用者支援に携わりたいと思います。このような発見をさせてくれた利用者さん・職員に感謝です。

主任支援員 中尾 麻里子

職員より

新年度がスタートし、2か月が経ちました。今年度は生活介護班5班から4班へ異動になり、いまだ慣れない事も多いのですが、日課の流れや活動内容の把握に勤しんでいます。

4班では、生活支援や個別活動、運動、生産活動を中心に活動をしています。特に運動の時間は、利用者さんの体力維持や運動不足の解消、ストレス解消という意味もありますが、利用者さんと会話をたくさん出来る機会でもあります。この時間を大切に、利用者さんの相談事や面白かった事、悲しかった事など、何気ない言葉から想いを汲み取れるようにしたいと思っています。

今年で10年目を迎えますが、常にせかせかとしていた自分を改め、利用者さんとの何気ない会話や、ゆっくりする時間を大切に、よりよい支援に繋がられるようにしていきたいと思っています。
(支援員 松尾マ)



今年度は、生活介護2班より1班へ異動になり、新たなスタートになりました。現在、コロナウイルスで自粛が続き、心なしか沈み込んでいます。そんな中、利用者さんたちはいつもと変わりなく歩行訓練や軽運動など、また、天気の良い日は日向ぼっこをしたりと明るく過ごされているのを見て、自分も沈み込んでいる場合ではないと思ひ知らされる日々です。

いつ収束するか分からないコロナウイルスですが、今出来る事、利用者さんにやってあげられる何かを常に考えながら支援にあたりたいと思っています。早く元の生活に戻れることを願います。
(支援員 山田)

医務より

先月号の里だよりでお伝えしていた健康診断の結果がそろいました。今月号に結果を同封していますので、ご確認ください。健診の結果について、何か不明な点やご質問などありましたら、いつでもご連絡ください。要精密検査の指示がある利用者さんについては、新型コロナウイルスの状況をみながら受診を進めていきたいと思っています。

2月末より、施設内でも新型コロナウイルスへの対応を行っています。ここ最近の感染者数は減少してきていますが、いつ誰が罹患してもおかしくない状況は続いていて、施設の職員としてはまだ気を緩めることはできません。第2波・3波の話もあがっています。ワクチンや治療薬はまだないため、ウイルスとの戦いは長期戦になるようです。ウイルスに負けない体力・免疫力をつけるため、食事・睡眠・運動・口腔ケアなど利用者さんの普段の生活をこの機会に再度見直してみたいと思います。
(看護師 松村)

サービス向上委員会より

■ 意思決定支援【支援係長 竹下・主任支援員 長瀬・和田】

「意思決定支援」。近年、つくしの里ではこの言葉が飛び交うようになりました。

意思決定支援とは、自ら意思を決定する事が難しい方々が日常生活や社会生活に関して、自らの意見が反映された生活を送る事ができるように、可能な限り本人が意思決定できるよう支援する事です。

意思決定を繰り返す事で、人生や性格・個性が形成されます。我々もできるだけ個々の利用者さんの嗜好や想いを汲み取って支援をしているつもりですが、果たして本当に現状の支援が正解なのかは分かりません。つくしの里には「〇〇の活動がしたい」「〇〇模様の服が着たい」「〇〇を食べたい」と話せる方とそうでない方がいます。自らの訴えができない方の過去を知る事ができれば、その方の嗜好に沿って支援ができるのではないかと考えています。

そこで、保護者の方々にお願いがあります。7月に面談が予定されています。面談に携わる職員に利用者さんの過去に好きだった活動や好きな余暇時間の過ごし方、好きな服装等を教えて下さい。個々の過去を把握し、今後の支援に繋げていきます！

また、8月1日は当施設の開園日となっております。当日は開園記念祭を予定していますが、どのような内容にするかは全て利用者さんに決めてもらいます。利用者さんの意思を汲み取り、我々が準備をサポートしていきます。どのような内容になったかは9月号の里だよりでお伝え致します。
(主任支援員 和田)

今年は運動に力を入れています！

毎朝6:25
「みんなの体操」に合せて。
結構な運動量です👏



休みの日は世話人さんと運動。
1人から始めた事が4人に♪



グループホームでのひとこま

介護保険説明会で習った
「1分間片足立ち」
を交互に。
足の筋力アップ効果が！





ありがとうございます

ありがとうございました

今月の掲載分は、
令和二年四月二十一日～
令和二年五月二十日です

【シヨートステイ・

日中一時支援事業のご利用】

(一名 延べ 一日)

※四月三日からシヨートステイの受け入れは
中止させていただいています。

【寄付・寄贈】

・石塚 正司 様	・今坂 桂子 様
・岩根 治美 様	・後藤 弘子 様
・下村 一恵 様	・田上 修二 様
・西村 美智恵 様	・渕本 圭輔 様
・村里 和洋 様	・合志 あつ子 様
・平田 靖人 様	・古庄 晴美 様
・木戸 櫻 様	・三協化研 様

誠にありがとうございます。
利用者さんの為に使用させて頂きます。

編集後記

この自粛期間に外出や外泊を禁止した
ことをご家族の皆様は、施設内の様子はも
ちろん利用者さんに会えない状況に不安
を感じられたことと思います。

今回の里だよりでは、自粛期間中の様子
をたくさん掲載させていただきました。た
だウイルスに怯えて生活していた訳では
ありません。施設内でも十分楽しめるよう
な職員のアイデアがたくさん詰まった
活動や食事のフォロー、愛情溢れる自粛期
間にも感じられました。

また、皆様からマスクや新鮮な野菜の寄
附もたくさんいただきました。皆様も大変
な状況の中、利用者さんのためにと考えて
行動して下さいましたことに感謝申し上げま
す。

皆様と一緒に乗り越えたいと思います。

※お詫びとおことわり

里だより担当では、毎月十分注意して
記事の記載、確認をしておりますが、誤字
脱字等がございましたら何卒ご容赦して
いただきたく存じます。